

# はしの なし

## 第七稿 魅力ある親柱特集（後編）

「はしのはなし」では、皆さんに横浜の橋の歴史や小話を、定期的に紹介していきます。第7回目は、魅力ある親柱特集（後編）。3編にわたり紹介してきた親柱特集の最後になります後編では、青葉・都筑・戸塚・栄・泉・瀬谷区から魅力ある、特徴的な親柱を紹介したいと思います。

### 1 奈良中央大橋（青葉区）



奈良中央大橋の親柱



右岸下流より奈良中央大橋を望む。



奈良中央大橋は自然豊かで多くの動植物が住まう奈良川に平成2年3月に架けられた橋です。親柱には、この橋を渡った先にある「こどもの国」に因み、豊かな自然の中で駆け回る子供をイメージした意匠を採用しています。

### 2 四季舞橋（都筑区）



四季舞橋の親柱



西側より四季舞橋を望む。



四季舞橋は港北ニュータウン事業の一環で、緑道「くさぶえのみち」に平成元年3月に架けられた橋です。緑道から見ると印象的なV字橋脚の形状は、谷状の地形と一体となるような扇形を描いている。親柱や束柱は、この橋脚の形をモチーフとした意匠を採用しています。

### 3 吉倉橋（戸塚区）



吉倉橋の親柱



右岸上流より吉倉橋を望む。



吉倉橋は戸塚駅東口再開発事業の一環で、昭和63年3月に架け替えられた橋です。重量感がある親柱は、設計時の都市化・高層化という社会の波に合わせた、モダンで周囲の建物に負けない大きさを意識した意匠を採用しています。また、戸塚駅や駅前広場への玄関口をイメージしています。



## 4 小いたち橋、大いたち橋（栄区）



右岸下流より小いたち橋(左)・大いたち橋(右)を望む。

小いたち橋・大いたち橋は平成5年6月に架けられた人道橋です。2橋は区のシンボルとなるように、自然と人間との共生をテーマにデザインされており、親柱は小いたち橋では男の子と女の子のいたちを、大いたち橋では父と母のいたちの意匠を採用しています。この2橋を含めた空間は「大いたち橋・小いたち橋といたち川プロムナード」として平成7年度に手づくり郷土賞(コミュニティ部門)を受賞しています。

(右上)大いたち橋の親柱  
(左下)小いたち橋の親柱

## 5 和泉橋（泉区）



左岸下流より和泉橋を望む。



(左)魔女が描かれているガラス高欄

和泉橋の親柱

和泉橋は和泉川に平成5年9月に架け替えられた橋です。高欄に用いられている、下流側上流側合わせて38枚のガラスにはそれぞれ異なる絵が描かれており、中には区の花である「あやめ」のデザインのものもあります。照明も兼ね、存在感のある大きな親柱も含め和泉橋は、駅も近くバス等も通い、この地を訪れる多くの人々が出会う橋であるため、泉区のシンボルの一つとして記憶に残るデザインがされています。

## 6 赤関おとなり橋（瀬谷区）



右岸下流より赤関おとなり橋を望む。

赤関おとなり橋は平成元年1月に架け替えられた人道橋で、架け替えられた当時は横浜市では数少ない木橋でした。親柱についている円盤形のものには回すと音なる「鳴り車」で、4本の親柱の上下に各種金属でできた8個の鳴り車からはそれぞれ違う音が聞こえてきます。また、橋名は近隣にある原小学校の生徒がつけた応募の中から選ばれました。

赤関おとなり橋の親柱